

こころの風

第7号

令和6年11月26日発行



✿友達大事！

友達っていい。何も理由はない。横にいてくれるだけいい。歌を口ずさんでいると横でハモってくれる。ムシャクシャしたときはその人と一緒にいると落ち着く。部活帰りに馬鹿なことを言い合いながら帰る。それだけで楽しい。

人生で大切なものはいろいろある。でも高校時代はなんと言っても友人だ。これなしにはあり得ない。大学合格のためだけの高校生活はない。見つけましたか？一生の友達を。困ったときはいつでも話を聞いてくれる友人を。

✿「生まれたよ ぼく」～ 谷川俊太郎

生まれたよ ぼく / やつとここにやってきた (中略)
ぼくは知っている / ここがどんなにすばらしいところか
だから邪魔しないでください
ぼくが笑うのを / ぼくが泣くのを
ぼくが誰かを好きになることを

裏面も

読んでね

DV防止
ジェンダー
について

これは先日亡くなった詩人の谷川俊太郎さんの詩です。君たちが生まれたときは家族・親戚みんな大喜びしました。あなたはこのすばらしい世界を好きのように、まっすぐ生きていていいのです。誰にも邪魔されることはありません。思春期を生きる、それは大変なことですが、自分に自信を持って生きていきましょう。

大塚SCの心理学のおはなし ● その7

原因はどこにあるのか

部活の大会の結果や資格の取得といった日々の学習の結果の原因は何によるものか、と考えることを原因帰属といいます。学習の結果は、みなさんの場合は多くはテストの点数でしょう。テストの点数の原因を、自身の努力の成果と考えるのか、あるいは能力によると考えるかによって次の学習への取り組み方は異なってきます。自分は頑張った、努力したとテストの点数の原因を考えると、次も頑張ろうと思うでしょう。一方、自分は能力がないから点数も悪いと考えってしまうと、自分は能力がないから、できないからとマイナス思考になってしまいます。次のテストのために頑張るためには、努力を積み重ねれば改善されるというふうに、努力に原因を帰属させることが必要です。

☆12月のスクールカウンセラー来校日

2日(月)・9日(月)・16日(月) 13:30～16:30

学校外の電話等で相談ができる機関

24時間子供SOSダイヤル(親子ホットライン) 0120-0-78310 (通話料無料)

メール相談 soudan@news.ed.jp (無料)

SNS相談「スクールネット@伝えんば長崎」(LINE・web) ※24時間対応(土日含む)

https://www.tsunasou.net/notice_form/nagasaki/index

長崎県子ども・若者総合相談センター「ゆめおす」 095-824-6325 (10:00～22:00 日本祝休み)

yumeosu@n-kodomo-wakamono.jp

DV 防止教育 ジェンダーについての見識を広げよう②

10月15日に「対等な関係をつくるために」と題してNPO法人DV防止長崎から小松由美子先生を講師に迎え、1年生を対象にDV防止講話を実施しました。(2・3年生は昨年度実施) 最近は日常生活の様々な場面でジェンダー平等が取り上げられることも増えていますが、将来のために高校生のみなさんもジェンダーについての見識を広げていきましょう。

☆長崎新聞 令和6年4月4日の記事より

パートタイムの仕事を終えて家に帰り「疲れた」と口にする。夫から返ってきた言葉は「え、なんですか」。パートは疲れないと思っているのだから。最長から夫の帰宅時間に合わせて、夕食や風呂を用意するという佐世保市の40代女性。仕事を終えても待た構えているのは家の「仕事」だ。「必ずしも女性が食事の支度や子どもの世話をしなければならぬとは思っていない」。夫からはそう言われたこともあったが、夕食の準備ができなければ「疲れて帰ってきたのに」。言葉の裏側に夫

パートタイムの仕事を終えて家に帰り「疲れた」と口にする。夫から返ってきた言葉は「え、なんですか」。パートは疲れないと思っているのだから。最長から夫の帰宅時間に合

わせて、夕食や風呂を用意するという佐世保市の40代女性。仕事を終えても待た構えているのは家の「仕事」だ。「必ずしも女性が食事の支度や子どもの世話をしなければならぬとは思っていない」。夫からはそう言われたこともあったが、夕食の準備ができなければ「疲れて帰ってきたのに」。言葉の裏側に夫

家庭編



(2)

仕事終えても家の「仕事」

家庭で感じた

性別に由来する生きづらさ(抜粋)

「結婚は地元ですべき。早く結婚しなさい」と言われると結婚してないことが悪に思える。(30代女性)
生活の一部だから料理や掃除をするのに、朝晩から「雇い」と言われた。わざわざ褒められる話ではない。(30代男性)
笑顔して寝込んでいたら、夫から「今日の夕飯は？」と聞かれた。(40代女性)
私の休日はほぼ家事で終わるが、夫は一日自分時間。土日祝日仕事の時は、昼夕飯を用意して行くのが当たり前。何もかも投げ出したくなる。(30代女性)
なや正月は特に「男は台所に立つな」という空気がなる。(40代男性)
今にして思えば妻はゆっくりする時間がなかった。(30代男性)

性別で役割分担 根深く

の意識が浸透し、女性も責任を担うようになってきた。女性が進出が進み、共働き世帯も増加している中、性別による生きづらさをテーマにした長崎新聞の双方向型報道「ロ・ナガサキポスト」のアンケートでは、夫婦間の役割に関する「妻の働き」が多く戻された。

「女性が担う労働は社会的に軽んじられている。そう指摘するのは長崎大タイパーシナイ推進センターの矢内啓江准教授。身体師として女性の家事労働を価値で扱う『育児や介護なら市場化されたケアワークも安い賃金で従事する』といった意識を述べる。『妻のパートは疲れない』

だけでなく『職業主権は限定的な範囲に留められて、女性ジェンダーの役割への責任を認めない。男性が責任を担い、女性に押しつける方が性に合っている』といった社会の固定観念が根深くあるところ。『夕食の用意がないとまが不機嫌になる』とあれば、女性の仕事が諦めたり、昇進を諦めたりする場合もある。経済的自立を阻まれた女性。男性によって二人の人間として生きていく機会を奪われる。『女性に対する人権侵害。私たちの社会はこれを容認してよいのだろうか。』矢内教授はこう問いかける。『子育てで自立したのが、親族の集まりでの騒動。『男性たちが飲み食いする中、料理やお酒の準備、片付けをするのはいつも女性』。矢内教授は伝統的なジェンダー構造の中で『男性が無意識に特権的

役割を担い、女性も責任を担うべきではないかと訴える。さらに『女性はどうあるべき』という考え方を他の女性や自身の子どもへの押しつけも考えられるという。『男女それぞれが自己批判的な視点を持って見れば、社会は変わる』。性別による役割分担への意識変化がこれから社会に求められるだろう。(熊本県)

